

●兵庫県南あわじ市立松帆小学校

『防災マニュアル』から教材プリントまで 「教えやすく、伝えやすくなつた」と実感。

阪神淡路大震災を経験し、防災意識の高い淡路島の南あわじ市立松帆小学校。

2007年夏に2色デジタル印刷機を導入後、初めて制作したのは『防災マニュアル』

でした。以来、「伝えやすい」配色の研究を深め、現在では通信類や算数、

国語などの教材プリントまで、印刷物の種類も多岐に渡っています。



宮崎祐三校長

防災に関心の高い地で

『防災マニュアル』を2色印刷

は全国最多のため池があり
ますが、その半数超の約2
万2千が淡路に集中）。

「ところがこれまで、防

位置しており、松帆小学校（宮崎
祐三校長）は有名な景勝地である
慶野松原、五色浜に近い、のどか
な田園地帯にあります。児童数は
265名。

2色デジタル印刷機の研究助成
校として同機を導入したのは、2
007年夏。立石佳史先生が研究
主任となり、ただちに取り組んだ
のが『防災マニュアル』の2色印
刷です。

「そもそも2色デジタル印刷機
の助成申請の目的が、だれにもひ
と目でわかる『防災マニュアル』
を作ることでした。この冊子は毎
年、全保護者に配布しているもの
です」（立石先生）

1995年には阪神淡路大震災
で大きな被害が出、現在も南海地
震への危機感があります。海拔の
低い平野部では、津波の危険と背
中合わせの生活。4年前の台風に
よる豪雨では、大きなため池が決
壊しました（ちなみに兵庫県内に

前後の車が集まるので、そ
のつど、混乱が起きていま
した。理由は単純で、1色
印刷では、ひと目でコースが理解
されないことでした（立石先生）
どの部分に色を使うか、ほかの
先生とも研究し合い、「絶対に伝
える内容を赤色で表現」し、現
在の2色の『防災マニュアル』が
完成。保護者からのアンケートで
も、「これならよく分かる」と好
評を得ています。

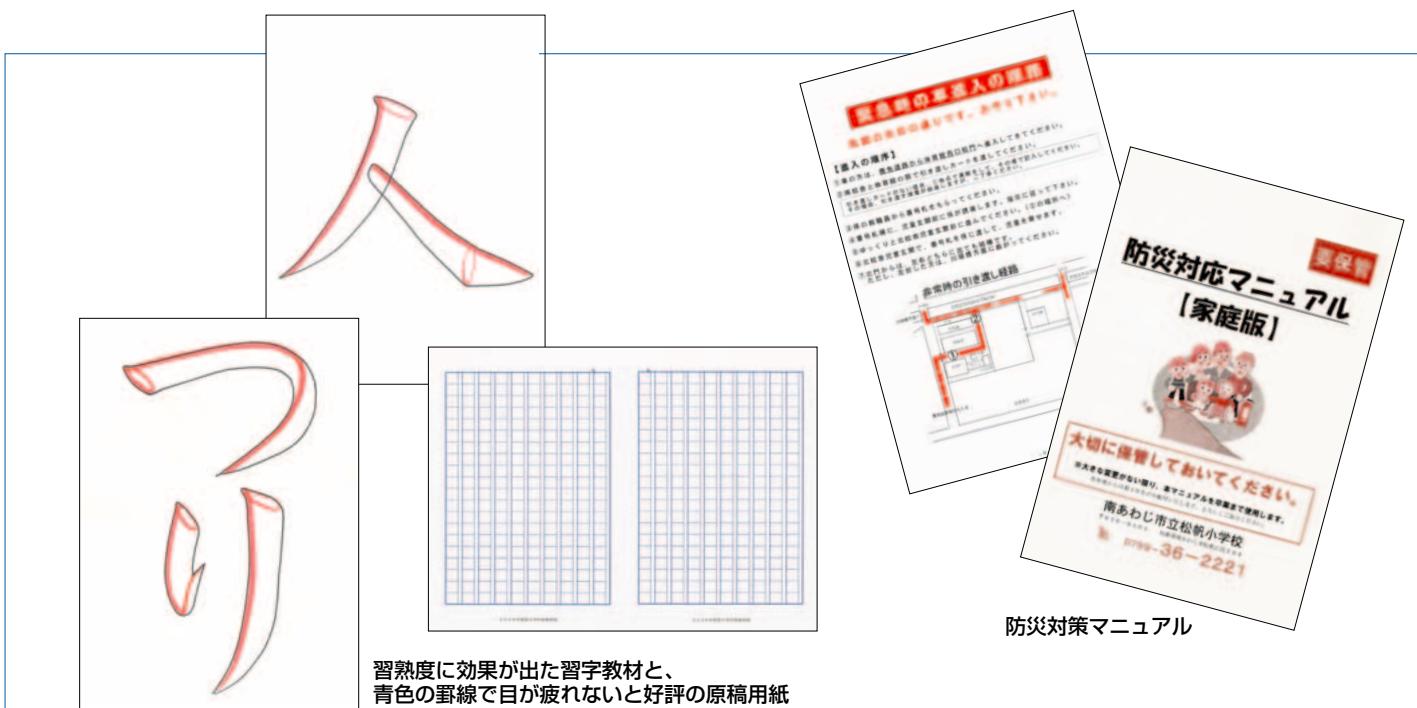


立石佳史先生

よりよい色づかいを 先生方でディスカッション

『防災マニュアル』の制作を通
じて、先生方が2色印刷の楽しさ
を実感すると同時に配色について

現在では、『学校だより』をは
じめ『学級通信』『食育だより』
『図書だより』など、多くの媒体
に2色印刷は広がっています。
「それぞれの媒体ごとに、どこに
何色を使えばよいか、さまざま
な議論を重ねました。例えば『食育
だより』では青色を使うと、食べ
物がまずそうに感じるという意見
が出ましたし、『図書だより』で



習熟度に効果が出た習字教材と、
青色の墨線で目が疲れないと好評の原稿用紙



学年だより・1年「なかよし」

図書だより

食育だより

「理科離れと言われている現在
教科ではこのほか算数、国語でも
も2色印刷を活用（グラフ・図形、
漢字ドリルなど）しています。こ
れからは理科にも活用しようと考え
ています。」

「これまでなぞる部分の黒色を
薄くして、教えていましたが、薄
くするのは難しい作業でした
(笑)。私たちも楽になりましたが、
子どもたちも赤色のところを筆で
なぞるので、運筆の実感が生まれ、
集中力が出ているようです」（立
石先生）

習字では、子どもたちがなぞる
部分を赤色の枠で印刷。これまで
の黒色だけの印刷と違い、習熟度
が格段に上がっていると言いま
す。

教科では2色印刷を用いて教育
効果をあげています。

2色活用で教えやすくなつた

は逆に赤色では目立ちすぎて、落
ち着きがなくなるなどの反応が出
て、媒体によって適切な色がある
ことが分かりました」（立石先生）

この他、学級活動に使う便箋な
ど、多種の用途で2色印刷を活用
している本校ですが、その効果に
ついて、宮崎校長は次のように締
めくくっています。

「2色を使うことで、子どもた
ちも保護者も、すぐに色の部分に
視線が行きます。そしてその文が
大切なところだと、説明なしでも
理解します。

また教える側にとつても、教室
で、この赤の部分、と指示示すだ
けで子どもたちに伝わります。と
ても教えやすくなりましたね」



松帆小学校